

付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（名古屋工業大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄
<p>本学では、2020年度前期授業は、原則としてMoodleとstreamを活用したオンライン授業により実施し、後期は、対面授業とオンライン授業の割合を概ね半々として、実施した。</p> <p>2021年度においては、新型コロナウイルス感染症の状況の変化を踏まえつつ、学生の登校機会を確保するため、講義室の収容定員を概ね50%程度になるよう考慮して、すべての講義科目において、原則として1つの授業で学生番号毎に奇数・偶数の2グループに分け、面接授業と遠隔授業を交互に行うハイブリッド式による授業を実施している。</p>
<p>2020年度にオンライン授業を円滑に実施にするため、「オンデマンド教育導入部会」を設置し、当該部会において、教員向けの詳細なオンデマンド授業教材作成手引き及び学生への教材展開の仕組みの設計と実現、オンデマンド授業の円滑な実施・運用するための提言や知見共有の仕組みの構築などを行った。また、教育の質保証の担保の観点や授業への理解度を上げるため、授業後のMoodle上における小テストの実施方法及び双方向の質疑応答の実施方法について、教員に周知した。</p>
<p>2020年度に教員・学生等に関してオンライン授業に関するアンケートを行い、その結果を元に教員・学生合同の意見交換会（オンライン開催）を実施した。アンケート、意見交換会の結果（特に学生からの意見）、オンライン授業のあり方を見直すとともに、質保証の担保及び授業への理解度向上を目指し、2021年度における授業の実施方法について、対面授業の比率を増やすハイブリッド式による授業へ移行した。</p>

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄
<p>経済的理由により自宅等で通信環境が整わない学生に対しては、ノートPCやモバイルWi-Fiを貸与した。また、学内の教育用端末を設置している講義室やWi-Fi環境が整備されている講義室を開放した。</p>
<p>学生なんでも相談室では、コロナ禍においても孤立した生活での相談場所の確保のため、通常の対面による相談のほか、メール、電話、teams(microsoft)を利用した多様な方法により、学生が相談方法を選択し相談室を利用しやすいよう整備した。また、これまで対面で実施していた居場所支援についても、チャットを利用した方法で実施し、学生が孤立しないように工夫して学生支援を行っている。</p>
<p>2020年度のコロナ禍による対面授業・研究活動の休止後、研究活動再開に合わせて、より円滑に研究活動が再開でき、研究時間が確保できるよう、アルバイトなどの収入が激減した大学院生を対象に、生活支援金5万円を支給した。</p> <p>また、安全で円滑に学生生活を送るため、全学生を対象に、学内の食堂や売店での飲食・教材購入に利用できる「名古屋工業大学学生生活支援金」（学生一人当たり5千円）を支給した。2021年度も同様に全学生を対象に、「名古屋工業大学学生生活支援金」（学生一人当たり5千円）を支給した。なお、家計が困窮している者を対象にした支援については、今後も取組を継続する予定である。</p>
<p>課外活動について、学生が安全・安心して、活動を実施できるよう新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドラインを作成した。このガイドラインに基づいて、各課外活動団体は各団体の活動に対応した感染症対策について検討し「活動計画書」を作成、この内容について大学が確認・承認することで、活動が実施できるよう支援している。</p>